



宮城縣道路保護協會成る

宮城縣下の道路保護組合六十六團體は其の聯合大會を、九月十八日午前十時縣會議事堂で開催、縣當局及び地方有志三百餘名出席し川越土木課長開會の挨拶を述べ、次で知事湯澤三千男氏起ちて道路の改良保護に關し約一時間の訓辭ありて協議に移り、宮城縣道路保護協會設立の件は滿場一致之を可決し會則の各條項に付ては十八名の委員を擧げて審議一二修正の後本會議に諮り異議なく可決、次で會則に基き坂本内務部長を會長に、副會長二名の中一名は川越土木課長に他の一名は明春の總會に於て選舉することゝなり、評議員及理事は追つて會長より通知することに決して

午餐會に移り知事の發聲で萬歳を三唱し午後一時より左記諸氏の講演があつた。

一 諸國未知しるべ

道路改良會理事工學博士 牧 彦 七

一 自動車専用道に就て

内務事務官 新居善太郎

一 所感 縣會議長 佐々木 家壽治

一 農村簡易道路政策

町村長會長 木 村 匡

講演終つて午後六時より道路愛護に關する活動寫眞の映寫に觀覽者三千を算し頗る盛會であつた。因に其の設立趣旨は左の通りである。

道路は交通上極めて緊要なる機關にして、之が改良整備は産業文化の進展に至大の關係を有し爲政上一日も忽諾に附すべからざるなり、然るに道路の現状は其の利用狀態逐年繁雜を極め、殊に輓近動力に依る運輸機關の發達に依り幾多の改良修理を要するものあるは縣民の齊しく痛感せら

るゝ所なり、道路管理者銳意之れが完備を期し、夫々企畫

と共に覺醒奮起を促し、或は當局と提携策應して道路保護

すると雖も、財政の關係上之が

維持の實を擧げ、以て時運の進展に

急需に應じ得ざるの狀況に在る

資する所あらむとす、同感の諸氏冀

は洵に遺憾とする所なり、願ふ

くは此の趣旨を翼賛せられ、事業の

に今や内外多事文化施設の擴充
を必要とするの秋に際し、單に

遂行と其の發達興隆を期し以て目的
を達成せしめられむことを望む。

當局のみに委して一般縣民に於

て何等對策を講ぜざるが如きは

大利根橋開通す

公共物愛護の美風に反するのみ

帝都と陸前濱街道の交通竝に産業

ならず、爲めに蒙るべき不利不

の發達を數百年に亙りて阻んだ名に

便に想到せば蓋し思ひ半に過ぐ

し負ふ阪東太郎も永い渡舟の歴史を

るものあらむ、仍て同志胥相謀

捨て茲に昭和五年九月二十一日正午

り爰に本會を設立し、廣く同感

を以て九丁餘（長九八四・〇米、工費

の士を募り、相共に道路の維持

百四十三萬圓）の長大橋は開通して

修繕に關する研究調査を遂げ、

阪東地方人文の上に福祉を齎した。

或は當局に進言し、或は講演會

この日鐵道省常磐線、私鐵常總線

講習會又は展覽會を開催する等大いに輿論の喚起に努むる

常南線、筑波線、總武線をはじめ我孫子成田線、東武線等



宮城縣道路保護協會講演會

は朝來臨時列車を、また東京通船及銚子汽船等續いて乗客を運び、午前中に於ける土浦棧橋の如き一時危険を感ずる程であつたが警官の整理宜しき得、事故を見なかつた事は何よりであつた。

茨城縣の取手町及び千葉縣の我孫子兩町は此の喜びを迎へる爲め、協賛會を組織し國旗提灯其他の裝飾を凝らし、早朝より揃ひの波模様祝着を纏て『橋が架かつた大利根橋が、二百里流れて銚子へ注ぐ、昔思へば濱街道の、天子の御座船あの利根丸を、並木の蔭の三度笠、漕いだ船唄今何處』の新曲根利川音頭の行列日傘が拭ふたやうな秋霧れの空に聲期に兩町を賑はず、餘興の催しも町制施行以來空前の數に達し身動きもならぬ人出である。

午前十時、牛島茨城縣知事、岩崎茨城縣土木課長、谷口茨城縣道路主事、野上同縣屬は主任鈴木同縣技師と式場の部署を定めて來賓休憩所に入るや、内務大臣代理次田地方局長は自動車にて、道路改良會長代理都筑幹事は常總線を廻りて來着し、次で東京土木出張所長眞田内務技師、石田千

葉縣知事、東同縣土木課長、瀨谷貴族院議員等參集、やがて十一時爆竹を合圖に二千餘の來賓式場に入り、谷口主事開式の旨を告げ、別格官幣社常磐神社宮司小川速氏以下神官の奉仕によりて修被せられ、神代を偲ぶ警蹕の響につれて降神の儀あり奏樂裡に獻饌、一同起立の下に齋主祝詞を奏し、次で關係諸員玉串を捧奠禮拜して昇神の儀後撤饌、次で岩崎東土木課長の工事報告、茨城千葉兩縣知事の式辭、内務大臣告辭、道路改良會長祝辭、貴衆兩院議員總代、兩縣會議員總代、取手我孫子兩町長の祝辭に次で井上大藏大臣、森岡朝鮮警務局長、坂本福岡縣土木課長等の祝電を披露して一旦式を閉ぢ、次で渡り初めの式は茨城縣側なるテープを牛島知事、千葉縣側なるテープは石田知事に依りて切られ、東千葉、岩崎茨城兩土木課長誘導、神官修被の下に行進を始め石田千葉、牛島茨城兩縣知事、内務大臣代理次田地方局長、道路改良會長代理都筑幹事、眞田、青木、阿部内務技師等に續きて、當日の芽出度き三夫婦は白襟紋付の姿も優でに渡り初めに移り觀衆の視線を集中した。

其の芽出度き三夫婦は取手町、根本源次(六八)妻きい

(六五)、息、鐵

太郎(四五)、妻

さい(四七)、孫

源太郎(二七)、

同妻こと(二三)

我孫子町側に於

ては磯部元吉

(七二)、妻まき

(六九)、息、米

太郎(五二)、同

妻よし(五三)、

孫、太一郎(三

一)同妻つま(二

三)の二家十一

名である。



大 利 根 橋 渡 橋 式

老澤爲次郎、風見章、飯村五郎、小峰満男、川島正次郎、多田満長、鶴澤宇八、篠原陸朗各代議士兩縣會議員以下二千餘名の來賓、我孫子取手兩町小學校青年團消防隊三千之れ従ひ歡びの聲は坂東太郎の流れを揺がした。

それより取手町寄りの河敷に於て我孫子取手兩町の祝賀會は開かれ、染谷濟氏は町長として、また染谷正治氏は協賛會を代表して挨拶を述べ、之れに對し末松階一郎氏は架橋豫算決定當時の茨城縣知事たりし關係で、所感を述ぶる頃舞臺にては新曲大利根音頭の鐘大鼓賑はしく萬衆歡呼の聲は遠く筑波ヶ峰にも舒し、また兩岸より擧がる煙火は小山、下館、友部地方まで頻映し、其盛況は夜をも徹した。

斯くて六號國道大利根橋の開通式は終了したが同路線上に残された重大問題が數箇ある、新たに出來た問題は我孫子地内に於ける省線(常磐線)との踏切問題で、次ぎは牛久地内の地盛、第三は石岡地内に於ける省線(常磐線)との交叉箇所改修、第四も亦水戸市外に於ける同問題である此の問題は内務鐵道兩省は勿論縣に於ても改修の必要を認

めては居るけれど、費用其他の關係で容易に實現を見るに至らぬ次第であるが、大利根橋の架橋も竣工した今日は非解決の要に迫られて居るので、鐵道側より東京鐵道局技師中山忠三郎氏、道路改良の立場より都筑幹事、また橋梁關係については青木内務技師等が同行したのであるが、曩に群馬、栃木等の縣會議員諸氏が視察して大いに賞賛したといふ程あつて、路面の維持修理は實に行届いて居る、また道路の示導標等も手入れを怠らず、係員は常に自轉車で廻り注意を怠らぬ爲め、自動車協會其他から幾度も感謝されて居る由である、途中で義公遺愛の千貫櫻を觀たが老樹已でに頽傾し、往時の艷色は憫ぶべくもないので、縣及び地方有志は保存方法に就て議を凝らしてゐる、牛久沼に沿ふ國道一軒半餘は風波ある毎に尺餘の浸水を被ること屢々ある趣、之れは風波の防止堤と路面の地盛が緊要であると信する。

次ぎは三百數十年の思ひ出長き大利根の渡舟も此の日を以て廢止され、十八代目とかの船守染野長吉爺(八十二歳)

は名残惜しげに感慨に耽つて居る、寄る年波に長男平(五十二歳)が船頭として毎日渡し場に到り數名の楫子と之れに従事して居たのであるが、之から渡し守は失業する譯である、併し昨年ツエツペリン飛行船が霞ヶ浦に來た時の渡船賃は取手町に納むる一千二百圓を一時に稼ぎ、非常なる景氣であつたが、布佐布川間に吊橋が出来てから蛾墮り愈々轉業の時機に迫れるを感じたといふ事である、一行が縣廳に着いたのは午後五時であつた、それより改修の概要其他に關し一時間餘に互り種々議を練り、次で木の香もまた新らしき山口樓で川庄白石高木鈴木各技師馳加はりて内務鐵道及び縣側計三十餘名で晚餐を共にし、將來の交通施設に就て數時懇談して散會した、因みに兩縣知事式辭、内務大臣告辭、道路改良會長祝辭は左の通りである。

式 辭

國道六號線千葉縣東葛飾郡我孫子町茨城縣北相馬郡取手町間大利根橋架設工事其ノ功ヲ竣ヘ本日ヲトシ多數貴賓ノ貴臨ヲ仰キ茲ニ竣功ノ式典ヲ舉クルヲ得タルハ洵ニ欣快トス

ル所ナリ

六號國道ハ由來陸前濱街道ト稱シ東京以北ノ海岸地方ヲ通貫スル幹線トシテ最モ重要ナル道路ナリ而モ千葉茨城兩縣ヲ境スル利根川ニハ未タ架橋ノ設備ナク纔ニ渡船ニ依リテ連絡スルニ過キスタメニ交通量ノ減殺、時間ノ空費甚シク一朝豪雨出水ニ遭ヘハ倏ニシテ交通杜絶シ數日ノ長キニ互リテ空シク減水ヲ待ツノ外ナク全ク幹線道路タルノ機能ヲ缺クニ至リ本川以北各地方産業ノ開發ヲ阻シ文化ノ進展ヲ妨クルコト甚大ニシテ遺憾トスルコト年久シキモノアリ千葉、茨城兩縣當局夙ニ意ヲ之ニ注キ關係地方各位亦架橋ノ促進ニ盡瘁セシモ地方財政ノ逼迫ハ容易ニ之カ實現ヲ許サカリシカ本橋架設ノ事タルヤ獨リ千葉、茨城兩縣ノ福利ヲ増進スルニ止ラス全國交通幹線ノ整備上或ハ國防軍事ノ統制上最モ緊要ナル事業ナルヲ以テ敢テ工事ノ達成ヲ企圖シ即チ大正十五年度以降工費百四拾參萬圓ノ豫算ヲ計上シ千葉茨城兩縣ニ於テ之ヲ分擔スル一方工費ノ四分ノ三ヲ國庫ノ補助ニ仰キ工事ノ施行ニ付テハ茨城縣之ニ當ルコトトシ

昭和三年九月工事ニ著手シ今其ノ竣功ヲ見ルニ至レリ本橋完成後ニ於ケル六號國道ノ機能ハ當ニ陸上交通ニ一新紀元ヲ劃シタルモノト謂フヘク特ニ千葉、茨城兩縣ノ産業文化ノ進展上享クル利便ノ大ナルハ火ヲ睹ルヨリモ瞭ニシテ洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ

仍チ此ノ機會ニ於テ本橋架設事業達成ニ付與セラレタル政府ノ懇篤ナル助成ト地方各位ノ不斷ノ援助トニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ將來兩縣官民協力シテ一層地方ノ開發ニ精勵シ以テ本橋架設ノ趣旨ニ悖ラサラムコトヲ期ス本日ノ盛典ニ方リ聊カ蕪辭ヲ列ネ以テ式辭トナス

昭和五年九月二十一日
千葉縣知事 石 田 馨
茨城縣知事 牛 島 省 三

告 示

六號國道利根川架橋工事成るを告げ、本日茲に竣功式を舉げらる、邦家の爲め寔に欣慶に勝へざるなり、由來六號國道は陸前濱街道と稱せられ帝都と東北地方とを連絡する重要幹線にして交通上の使命極めて重大なるものあるに拘

らず之を横過する利根川には從來橋梁の設備を缺き、纔に

渡船を以て連絡を爲すに止まり、交通上

の不便實に甚しきも

のありき、茨城千葉

兩縣當局深く思を此

に致し曩に相謀りて

架橋の計を樹つるや

政府之を助勢する所

あり、起工以來年を

重ねる二年、費を費

す百四十餘萬圓今輒

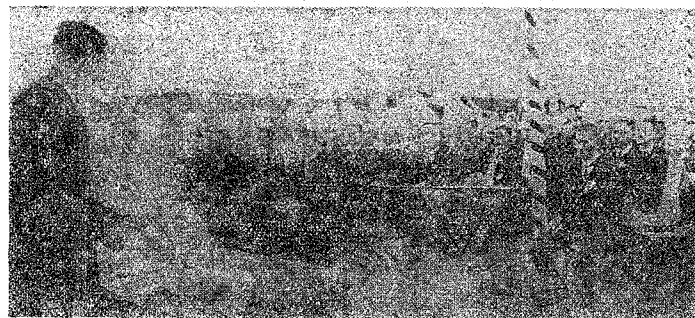
ち其の工を竣ふ、工

法の新式にして規格

の宏壯なる蓋し一偉

觀たるを失はず、念

ふに今後之に依りて著しく交通の便を進め地方の發展産業



次田地方局長の内相祝辭代讀

の開發に資補する所亦極めて大なるものあるを疑はず、冀くは將來之が維持管理に力め以て長に其の利用を完ふせられむことを一言所懐を述べて祝辭とす

昭和五年九月二十一日 内務大臣 安達謙藏

祝辭

六號國道大利根橋架設工成り、本日茲に竣工の式典を擧げらる洵に慶賀に堪へざるなり、本橋架設の箇所たるや關東大沃野の交通上極めて重要な地點たるに拘らず、從來渡舟に倚りて纔かに來往したるに過ぎず、交通上支障を感ずること久しかりき、茨城千葉兩縣當局此に鑑みる所あり、昭和三年架橋の計畫を樹立し、國庫の助勢と地方人士の協力とにより今輒ち工成るを見る、惟ふに之に依りて利根流域中樞の交通に劃期的新生面を開き、地方産業の振興に寄與する所蓋し大なるものあるべし

冀くは今後克く之が維持に力め以て永へに其の効果を完ふせられむことを一言所懐を述べて祝辭とす

昭和五年九月二十一日 道路改良會長 水野 鍊太郎

藤井技師の渡米

第六回萬國道路會議は、北米合衆國ワシントン市に於て本月六日より向ふ一週間開催せらるゝので、我國よりは内務省土木試験所勤務内務技師藤井眞透氏が派遣せられたので、客月十一日横濱解纜エンプレス・オブ・カナダ號にて一路目的地に向つた。同氏は人も知る如く我國に於ける道路材料學の權威者なるを以て、歐米各國の委員との會同は蓋し期して俟つべきものがあらう。因に氏は會議散會後は本會の囑託に依る歐洲各國の道路を視察の豫定である。

囑託西澤君の榮轉

本會囑託西澤哲四郎君は這回の異動で地方事務官と爲つて鳥取縣へ榮轉した。氏は昭和三年東大出の俊英で、大學を出ると直ぐ群馬縣屬と爲り、短い間に農務課や地方課、土木課と各課を經巡つて後給振を發揮したものださうである。

昨年五回内務屬に轉じ土木局道路課に勤務し、公務の餘暇本會々務を援助した。氏は所謂見習の型を脱した本當の「仕事し」で算盤も弾く面倒な計算器も使うと云つた調子で道路課に於ては随分仕事をしたものである。鳥取縣では一躍農務課長の重要椅子についたさうであるが、氏の手腕を以てせば圓滿な事務の進捗を見ることがあらう。幸に健闘を祈る。

× × × × ×